

あおやぎ

No.293
2023年4月



令和5年度・コロナ後の再出発を見据えて ②

入退院支援ってなんですか？ ③

緩和ケアができること ④

あってよかった緩和ケア ⑤

外来診療案内 ⑥

県立中央病院の理念と方向性

〈理念〉

県民の健康と生命を支える安心と信頼の医療

- ・患者の権利と意思を尊重し、高度で良質、適正な患者中心の医療を提供します。
- ・医療従事者としての倫理綱領を守ります。
- ・最適ながん医療と生活習慣病対策を推進します。
- ・信頼される救急医療を提供します。
- ・地域医療、福祉との連携をします。
- ・将来を担う医療人の教育、育成を行います。
- ・公共性に配慮した健全な病院経営を目指します。



令和5年度 コロナ後の再出発を見据えて



病院長 武田 弘明

当院は県の基幹病院として新型コロナに対応するという役割を果たすと同時に救急医療やがん診療、周産期医療などの高度な医療の両立を目指して頑張ってきました。なんと言ってもこの3年余りは新型コロナの感染拡大に悩まされましたが、ようやくその出口が見えてきました。コロナ後の再出発を検討できる時期が来たことは病院にとりまして大変喜ばしいことです。今後はおおよそ1年をかけて徐々に本日の日常に戻るのではないかと期待されます。しかしながらその一方で、新型コロナウイルス自体が消えた訳ではなく、感染の危険性は依然として残っていますし、ご高齢の方が感染した場合はそのまま生命に関わることに変わりありません。そのため病院としては引き続きとなりますが、ある程度の感染対策をしなくてはなりません。今年度も、患者さんやご家族の皆様には感染対策へのご協力をお願いする場面もあろうかと思えます。お見舞いや院内イベントなど本日の日常を取り戻す時期が来ますまでよろしくお願ひ申し上げます。

昨年度を思い起こせば、当院も例外ではなく大きな感染拡大の波に呑み込まれてしまい、断続的に院内クラスターとなりました。さらには多くの職員が自宅待機を余儀なくされたことから診療を制限することとなりました。その期間、県民の皆様にはご不便をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

さて、このような渦中の3年間でありますが、我々は病院機能をより高めることにたゆま

ず積極的に取り組んできました。“患者サポートセンターの開設（令和2年）”、“外来化学療法センターの拡充（令和3年）”、“脳血管撮影装置の機種更新（令和3年）”、“ロボット手術装置（ダヴィンチ）の稼働（令和4年）”、“MRI撮影装置の更新（令和4年）”など着々と機能の強化や整備を進めてまいりました。特に患者サポートセンターは患者さんの入退院における利便性を高めることに加えて、医療安全の面でも大きく前進したと言えます。是非ご活用いただければと思います。またこれらハード面の充実だけでなく人材育成や医療安全を含めた医療の質というソフトの面でも頑張ってきました。喜ばしいことに今年度も定員枠いっぱい初期研修医を迎えます。活気ある教育病院であり続けることも大切な病院の役割でもありますので、どうぞご理解をいただきたいと存じます。

結びになりますが、実は昨年度も同様のことを書かせていただきました。このコロナ禍を経験する中で、当院の果たすべき役割こそは“高度の急性期医療を提供”であるとあらためて強く認識をするに至りました。その使命を果たすべく頑張りますので、今年度も当院をどうぞよろしくお願ひします。

入退院支援ってなんですか？

患者サポートセンター入退院支援室長 渡辺 五月

「入退院支援」とは、入院する患者さんが安心して入院生活を送れるように、また退院後も住み慣れた地域での生活が続けられるよう支援することをいいます。予約入院の患者さんには、入院が決まった外来の時点から看護師が入院生活や退院後の生活をイメージして関わるよう心がけています。

国は、少子高齢化が進み医療や介護の問題に対し、地域包括ケアシステムの構築を推奨してきました。具体的には、高齢者など介護が必要な状態であっても可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう支援する仕組みです。当院は高度急性期病院としての役割を担っており、地域の医療機関や訪問看護、介護の事業所など地域の施設と連携を図り、入退院支援に取り組んでいます。

当院の入退院支援は患者サポートセンターの中にある入退院支援室が担当しています。その患者サポートセンターとは、外来および入院中の患者さんの診療をあらゆる面からサポートする目的で2020年12月に設置されました。治療に伴う相談や病気を抱えながら生活する方の相談を受けた

り、入院患者さんへの案内や情報を伺っています。その中で入退院支援の一環として、看護師が入院予定となった患者さんに入院生活や治療の経過をイメージして入院となった経過や生活状況の聞き取りを行います。患者さんから見れば、入院はひとつの通過点に過ぎません。スムーズな入退院を心がけ患者さんが望む生活を送ることができるよう支援していきたくと考えています。

入院患者さんは治療が終わると自宅退院となりますが、中には引き続き医療が必要な患者さんもいらっしゃいます。その場合私たちは、自宅で医療を受けられるよう調整したり、他の病院での治療が必要な場合は次の治療を担う病院への転院を調整します。それらを決める上で大切なのは患者さんの意向になります。患者さんはそれぞれ考え方や過ごし方も違います。あるいは患者さん自身とご家族の考えが違う事もあります。ですから病気の診断がついた時、入院が必要になった時、治療の経過の説明を聞いた時などの機会に「自分はどうしたいか」「自分はどう考えているのか」と振り返るなど、ご家族と話しておくことも大事だと考えています。

これからも、入院する患者さんには安心して入院生活が過ごせるように、退院後も患者さん自身が望むような生活が続けられるよう、私たちは患者さんの自分らしさを大切にした意思決定を支援していきたくと思っています。



患者サポートセンター入口

緩和ケアができること

緩和医療科 鈴木 尚樹

はじめに

緩和ケアという言葉聞いたことがある方は、あまり良いイメージはないかもしれません。緩和ケアを正しく知ること役立つことは多く、今回は私たちの活動を紹介します。

緩和ケアは、患者さんとその家族の生活の質(QOL)を改善する取り組みのことを指します。緩和ケアの対象は診断・年齢・場所等を問わず、重い病とともに生きるすべての人とその家族です。緩和ケアという言葉聞いたことのある方は「がん」や「終末期」などを思い浮かべるかもしれませんが、心不全や神経難病などのがん以外の病気に関わったり、病気の診断がついた早期から関わったりなど、多くの場面で緩和ケアが力になります。

緩和ケアの役割

①症状緩和、②コミュニケーション、③地域連携の大きく3つに分けられます。①は痛みだけでなく倦怠感や吐き気、息苦しさなどの症状をやわらげ、日々の生活を過ごしやすくします。その方法は薬だけでなく、看護ケアやリハビリテーションなどの薬以外の治療も大きな役割を占めます。②は患者さんやその家族の気がかりに気づくことや、先行きの見えない不安等を十分な時間をとってお聞きします。時には悪い知らせを伝えることもありますが、治療とケアのゴールに関する話し合いを患者・家族・医療者で行い、希望に沿った医療を受けられるように支援します。③はイメージが湧きづらいと思いますが、病院だけでは医療が成り立ちません。住み慣れた地域で過ごすため、地域のクリニックや調剤薬局・訪問看護ステーション等との連携や、介護保険等の社会福祉サービスの利用が必要になることがあります。ソーシャルワーカーが中心となり、患者さんと家族の生活を支援します。

当院の緩和ケアの提供体制

①緩和ケア外来

当院通院、または他院通院中の患者さんやご家族と関わります。各担当診療科の外来に並行して、患者さんの身体のつらさや不安や気がかりなどに対応

します。後述する緩和ケア病棟に関する相談も行っています。

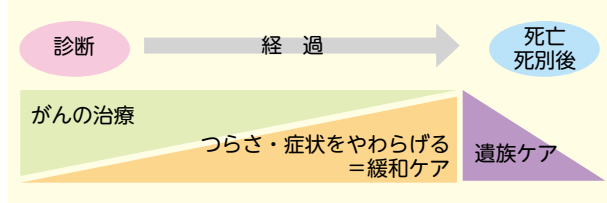
②緩和ケアチーム

入院中の患者さんやご家族と関わります。リハビリスタッフや栄養士、心理士など多職種で構成されたチームで集中的にサポートします。

③緩和ケア病棟

当院緩和ケア病棟は、2001年5月に開設されました。専門的・集中的な緩和ケアを提供し、患者さんやご家族のつらさを和らげて生活の質を高めるための病棟です。「最期を迎える場所」というイメージは強いですが、自宅で過ごす準備をするために一定期間利用される方も多くいらっしゃいます。

緩和ケアの概念図¹⁾



緩和ケアは診断・年齢・場所等を問わず、重い病とともに生きるすべての人とその家族が対象です。あなた自身や大切な人のため、緩和ケアについては是非知ってください。患者さん・ご家族の具体的な困りごとに焦点を当てた解説動画がありますので、よろしければご覧ください²⁾。

参考文献

- 1) Bruera E, et al. Textbook of Palliative Medicine and Supportive Care. 3rd ed, CRC press, 2021.
- 2) 日本緩和医療学会. あってよかった緩和ケア <http://attheyokatta.kanwacare.net/> (2023/2/19 最終アクセス)





令和3年度厚生労働省委託事業 緩和ケア普及啓発活動

あってよかった緩和ケア



マンガ動画 「家族ががんになったら知っておきたい緩和ケア」(全10話) 日本緩和医療学会(JSPM)公式YouTubeチャンネルにて公開中!!



◎マンガ動画 全10話

- ・第1話 「がんと診断されたときのショック」
- ・第2話 「医療用麻薬の誤解を解く」
- ・第3話 「「これからは緩和ケアですね」と言われる」
- ・第4話 「先のことを考える ACP、早期緩和ケアの関わり」
- ・第5話 「家族として何ができるか」
- ・第6話 「緩和ケア病棟は看取りだけではない」
- ・第7話 「在宅緩和ケアの紹介」
- ・第8話 「若い世代の患者への緩和ケア」
- ・第9話 「せん妄について」
- ・第10話 「医療費の心配」

QRコードで今すぐアクセス!



日本緩和医療学会(JSPM)
公式YouTubeチャンネル



日本緩和医療学会



特定非営利活動法人 日本緩和医療学会
令和3年度厚生労働省委託事業 緩和ケア普及啓発活動

緩和ケアについてさらに知りたい場合には、「がん相談支援センター」や、「緩和ケアチーム」までご相談ください。

ブロック	診療科	診療曜日					ブロック	診療科	診療曜日				
		月	火	水	木	金			月	火	水	木	金
A	内科	●	●	●	●	●	D	産婦人科(産科)	● 要紹介状	● 要紹介状	● 要紹介状	● 要紹介状	● 要紹介状
	呼吸器内科	△	FAX 予約のみ	△	△	FAX 予約のみ		産婦人科(婦人科)	FAX 予約のみ	FAX 予約のみ	FAX 予約のみ	FAX 予約のみ	FAX 予約のみ
	血液内科	△	△	△	●	△		頭頸部・耳鼻咽喉科	● 要紹介状	● 要紹介状	● 要紹介状	● 要紹介状	● 要紹介状
	糖尿病・内分泌内科	△	△	●	△	△	E	小児科 新生児内科	●	●	●	●	●
	循環器内科	●	●	●	●	●		小児外科	△	● 午後のみ	△	△	● 午後のみ
	消化器内科	●	●	●	●	●		皮膚科	●	●	●	●	●
B	整形外科	FAX 予約のみ	FAX 予約のみ	FAX 予約のみ	FAX 予約のみ	△	形成外科	●	△	●	△	●	
	眼科	● 要紹介状	● 要紹介状	● 要紹介状	● 要紹介状 10:30まで	● 要紹介状	F	外科	●	●	●	●	●
	歯科口腔外科	FAX 予約のみ	FAX 予約のみ	FAX 予約のみ	FAX 予約のみ	FAX 予約のみ		呼吸器外科	△	●	FAX 予約のみ	△	●
脳神経外科	●	●	●	●	●	乳腺外科		●	●	●	△	●	
C	泌尿器科	● 要紹介状	△	● 要紹介状	● 要紹介状	● 要紹介状	緩和医療科	● 要紹介状	● 要紹介状	● 要紹介状	● 要紹介状	● 要紹介状	
	心療内科	△	△	△	△	△	放射線科	放射線科	●	●	●	●	●
	脳神経内科	●	△	●	△	●							

当院を受診する時は

◎初めて受診される方

- ・総合受付(初来院受付)に診察申込書、問診票及び紹介状(紹介状をお持ちの方)を提出のうえ、受付してください。
- ・総合窓口受付開始時間までは番号札をとってお待ちください。

◎再来の方

- ・予約の有無に関わらず、再来受付機で受付してください。
- ・再来受付機は、午前7時30分からご利用になれます。

◎保険証または保険証利用登録の済んだマイナンバーカードのご提示がないと全額自己負担になります。

マイナンバーカードをご利用の際は、顔認証付きカードリーダーへの登録操作が必要になります。

◎「お薬手帳」をお持ちの方はご持参ください。

紹介型外来について

現在、当院においては、一部診療科の外来診療の初診について、紹介型外来による医療提供を実施しており、緊急の場合を除いて、紹介状をお持ちの方のみの受付に限らせていただいております。

- 初めの方・予約の方は受診できます
- △ 予約のある方のみ受診できます

呼吸器内科(火・金)・歯科口腔外科・整形外科・婦人科・呼吸器外科(水)は「かかりつけの先生」からのFAX予約が必要です

※内科の火曜・金曜日は症状によっては受付をお断りする場合があります。

非紹介患者初診加算料及び再診加算料について

【令和4年10月1日より金額が変更になりました。】

他の保険医療機関からの紹介がなく、直接当院へ来院された患者さんは、初診に係る費用「非紹介患者初診加算料」として7,700円(税含む)を頂いております。また、当院から他医療機関(大病院を除く)への紹介の申し出後に、当院を受診した患者さんからは「再診加算料」として、3,300円(税含む)を頂いております。ただし、助産にかかる療養費等の場合は、非課税となります。
※緊急入院等の場合は除きます。

再来患者さんからの電話予約及び予約変更については、患者サポートセンターで受付けております。

TEL 023-685-2620 (13時～16時)

「かかりつけの先生」からのFAX予約も受付けております。

FAX 023-685-2606
(平日/8時30分～18時 土曜/8時30分～14時30分)